

# 放射線業務従事者の教育訓練に参加して

日本鋼管病院 山口 英樹

平成 23 年 5 月 28 日（土）は生憎の雨。私は仕事終わりに会場に向かったがその足はやや重かった。が会場に着くと多くの参加者（70 名以上）が講習会に参加し、外の雨のことも感じさせない活気がそこにはありました。



講演 2. 廣野 圭司 先生



講演 3. 小見山 かおり 先生

私は、年 1 回（2 日間）開催されるこの講習会にはなるべく参加するようにしている。なぜかという他の講習会では聞けない話が聞けるからである。毎年、2 日目はリスクマネジメントに関する話題を中心にしており、今回は“医療の安全対策を考える”というテーマで 3 名の講師の方々から大変興味深いお話を聞くことができました。

私も常日頃から安全ということが、如何に大切であるのか、そして難しいことなのか、考えさせられています。私たちは診療放射線技師として、技術を提供することを生業として医療技術の進歩による診療の質の向上について常に求めていくことに関しては誰もがそうだとされることと思います。しかし、安全に対しては常に医療現場において、安全性を考えて運用システムの構築をしたり、日常業務を行ったりしているかという私は自信を持って「そうです」とは言い切れないのではないかと考えているからです。

当然、当院において安全対策は行っていますし、マニュアルもあります。しかし、様々な職種のスタッフがいる中でそのスタッフの一人一人の共通認識としている安全には個人差があることも事実であると思います。そこでひとつ例を挙げると、患者さんの名前の呼び間違えです。検査を行う際、呼び入れるときに名前を呼びます。その際、呼びこむ人の思い込みで名前を間違えて読んだりします。私も実際あるのですが、「〇〇ですか」と患者さん自身に名前を修正されて近寄ってくる時の患者さんの不安そうな表情や言葉にすごく重みを

感じます。これから検査をするのに名前を間違えられ、検査に対しても不安ななか、検査方法は間違っていないか？とか撮る場所は間違っていないか？と私たちの何気ない言葉で不安な気持ちさせていると思うのです。私は呼ぶ前になるべく診察券を何回か読みなおし、間違えないように注意しています。例えばこのような話を聞いて「そうだよな」と思う人もいれば、「そこまで考えなくても検査は間違えないよ」と思うのか、それだけでも個人的な考え方の相違があると思うのです。安全はなるべく同じ共通の認識の中で行うことが重要であり、誰かがやると任せていては一向に良くなっていかないとところが難しいと思っています。

多くのスタッフが安全に対して共通な認識を持つためには、その部署の管理者が率先して安全対策を推進・実行していく必要があると思います。私は今回、この講習会に参加できたことによって安全に対する講習会参加者と共通認識を持てたことが重要であるということと同時に、今後それらを養う場として、もっと多くの方に参加していただくことが安全への近道だと思っています。

安全とは、意識して行わないと実行できないことであり、多くのスタッフの共通認識を増やしていくことでより安全な医療を提供することができるのではないかと思います。そう思っている私には、この講習会は本当に有り難いです。